

2月26日（月）「読書のすすめ」

全校のみなさん、おはようございます。

2月の始めに節分について話をしたのを覚えていますか。その時に鬼の話をしました。鬼は、怖いものというイメージがありますね。物語の中ではどうかと、鬼に関係のあるお話を探してみました。いくつかの本を紹介してみましょう。

まず、「ももたろう」です。桃から生まれた桃太郎が、きじと犬とサルを引き連れて鬼退治に行くという話です。

次に「一寸法師」。これも有名ですね。一寸は約3センチ。その小さい一寸法師が、都でお姫様を襲った鬼をやっつけて、幸せになるというお話です。この二つのお話、どちらも鬼は悪い生き物です。

次のお話はどうでしょうか。「大工とおにろく」。このお話の鬼は少し違うようです。川の水で橋が流されてしまいました。新しい橋を作ろうと考えていた大工さんに、鬼が現れてあっという間に橋を作っています。しかし、その代わりに大工さんの目玉をよこせというのです。そのあとはどうなったのでしょうか。

次の「おにたのぼうし」というお話はどうでしょうか。かわいらしい鬼の子ども、名前を「おにた」といいます。おにたはとても心のやさしい鬼でした。その「おにた」が人助けをするというお話です。

最後に、「泣いた赤鬼」。心の優しい赤鬼が、人間と仲良くなりたいけれど、人間は怖がって仲良くなれない。それを友達の子鬼がいろいろなことを考えて、やがて赤鬼が人間と仲良くなれたというお話です。でも、なんで赤鬼は泣いたんでしょうね。それはぜひお話を読んでみてください。

鬼にも実にいろいろな鬼がいるんですね。

ところで、ここにちょっと面白い題名の本があります。「桃太郎は盗人なのか？」盗人とは泥棒ということです。面白そうな本なので、読んでみました。なんとこの本の作者は5年生の女の子です。この本については、次回の全校朝会で紹介します。もうすぐ次の学年に進級・進学する時期ですが、そんな今こそたくさん本を読んでほしいと思い、いくつかの本を紹介しました。みなさんぜひ、たくさん本を読んでください。

これで校長先生のお話を終わります。